

令和2年度 第1回 総合教育会議 議事録

日時：令和2年7月9日（木） 15：00～16：00

場所：裾野市役所 第一委員会室

出席者：市長 高村謙二

教育長 風間忠純 教育委員 眞田平芳 教育委員 桃井昭一

教育委員 渡邊すみ枝 教育委員 庄司伸子 教育委員 杉田博道

【企画部】

企画部長 石井 敦

【教育委員会】

教育部長 西川篤実 教育総務課長 勝又明彦 学校教育課長 荒井賢二

教育総務課主幹 鈴木直美

傍聴人 13名

教育部長

ただいまから裾野市総合教育会議を開会いたします。私が、本日の司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。ここで、本会議の主催者であります高村市長からご挨拶を申し上げます。

市長あいさつ

皆様こんにちは。前回の会議は1月末に開催させていただきました。その後2月、3月とコロナウイルスの影響が出まして、この間、行政といたしましてはコロナウイルスから市民の命を守ることが最優先の日々になりました。学校も3月から休校となり、また、4月になっても新年度も始まらず、現場の先生方も大変にご苦労されたものと思います。皆様方のご理解、ご協力もあり、感染の第一波は落ち着いたということで、国の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除され、市内幼稚園・小中学校は6月から再開しています。市では感染の第2波を防ぐため換気・手洗いの徹底、マスクの着用、あるいは音楽や英語の授業で使用できるようフェイスシールドの用意、トイレ清掃は業者に委託するなど万全な感染症対策を講じております。今のところ市内では感染者は出ておりませんが、学校現場では引き続き感染拡大防止に努めていただき、児童生徒が安全安心に過ごせるよう最大限の配慮に努めていただきたいと思います。本日はこのような中、「裾野市総合教育会議」にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。私にとりましては、この総合教

育会議は、教育委員会と連携しながら、裾野市として講ずべき教育に関して協議させていただき、重要な場でございます。本日は「学校再編について」協議させていただきます。前回1月30日に開催した会議では、「これから目指すべき学校の教育環境について」を議題とし、

①教育のあり方検討委員会での議論の中間報告

②教育に関するアンケートの結果報告

③新たな動向

「トヨタ コネクティッドシティ プロジェクト」

「GIGAスクール構想」

につきまして、協議あるいは情報共有させていただきました。

その中で、「①教育のあり方検討委員会での議論の中間報告」につきましては、第3回まで教育のあり方検討委員会で議論された内容について、教育委員の皆様と認識を共有させていただきました。その後、教育委員会に「裾野市の教育のあり方検討委員会 提言書」の提出をされたと伺っております。本日はその提言書を受け、学校教育の望ましい教育環境を実現するため、次に進むべき方向性について協議したいと思いますのでよろしくお願いいたします。未来の裾野市あるいは未来の日本を担う子どもたちのために、引き続き皆様方のお力添えをお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

教育部長

それでは、これから議事に入りますが、議事進行につきましては、裾野市総合教育会議運営要綱第4条によりまして、市長が行うこととさせていただきます。

なお、議事録を作成するため、会議の状況を録音させていただきます。また、作成した議事録は、市のホームページに掲載し、市民の皆様へ、情報発信していく予定です。市長よろしくお願いいたします。

市長

それでは、要綱の定めによりまして、座長を務めさせていただきます。早速、議事に入ります。「議事1 学校再編について」を議題といたします。学校再編に関しまして、教育委員会としてのお考えをお聞きしたいと思いますけれども、まず、事務局から昨年度「裾野市の教育のあり方検討委員会」において調査、検討をしていただいた内容を説明していただきたいと思います。その後委員の皆様から補足のご意見、ご感想があればいただきたいと思います。それでは、担当課より説明をお願いします。

説明者：教育総務課長

昨年度、「教育のあり方検討委員会」での協議の内容及び検討委員会から提出されました提言書の内容について説明します。

1) 委員会設立までの経緯

学校教育の現状や児童生徒数の変動に伴う学校の適正規模、学校施設の老朽化や通学の課題に対して、市内の小中学校に通う児童生徒の将来に向けた望ましい教育環境や教育効果の実現に向けた調査・検討を行うための機関として、「裾野市の教育のあり方検討委員会」を設置しました。

2) 委員構成

委員長 静岡大学教授 村山功 他 9名

3) 会議内容

①第1回委員会

(1) 学校教育の現状報告及び課題確認

②第2回委員会

(1) 教育課題の整理

(2) 子どもたちの学習環境としてあるべき学校の姿とは

(3) アンケート調査内容の確認について

③第3回委員会

(1) アンケート結果報告、分析

・通学の安全に関して

・学校規模に関して

・地域コミュニティに関して

④第4回委員会

(1) 再編案1～3についての意見

⑤第5回委員会

(1) 提言書の素案を作成

【再編案Ⅰ】（現行政区ベース案）コミュニティ重視型（提言書 P28）

現行政区（5 地区）をベースとし、5 地区内の中学校は現状維持とする。地域性を考慮し、小規模校は小中一貫校あるいは小規模特認校制度を導入する。

地区	小学校	中学校	再編（案）	学校数	学級数
東	東小 向田小	東中	・東小と向田小の統合	小1	東(向田)小 23
				中1	東中 12
西	西小 南小	西中	・現状維持	小2	西小 24 南小 12
				中1	西中 16
深良	深良小	深良中	⇒ ・小中一貫校の新設 ・小規模特認校制度の導入	小中1	深良小 11 深良中 6
富岡	富一小 富二小 千福小	富岡中		・富二小・千福小：小規模特認校制度の導入	小3
			中1		富岡中 11
須山	須山小	須山中	・小中一貫校の新設 ・小規模特認校制度の導入	小中1	須山小 6 須山中 3

1) 理由

- ・これまでの学校と地域との繋がりを重視し、各行政区に必ず学校を配置する

2) 期待される効果（メリット）

- ・これまで以上に学校と地域との関係が深まる可能性がある
- ・小規模校では、小中一貫校や小規模特認校制度の導入により、特色ある学校づくりが目指せる
- ・小規模特認校では、市内のどこからも通学可能とすることもでき、学校選択の幅が広がる

3) 課題（デメリット）

- ・地域によっては、さらに学校の小規模化が進む可能性がある
- ・小規模特認校が市内に複数存在すると、小規模校から小規模校を選択する場合など、その効果が期待できない恐れがある
- ・小規模の中学校が存続することになるが、競争意識や運動・学習意欲、部活動を含め、一定規模以上の学校行事の開催が困難となる可能性がある

【再編案Ⅱ】（中学校大規模統合案）（提言書 P29）

通学等の安全面に配慮し、小学校は東地区以外の学校は現状維持とする。一方中学校は、多様な教育活動の開催や競争意識・学習意欲の向上の視点に配慮し、一定規模以上となる

よう 3 中学校を統合する。

地区	小学校	中学校	再編（案）	学校数	学級数
東	東小 向田小	東中	⇒	・東小と向田小の統合	小1 東(向田)小 23 中1 東中 12
西	西小 南小	西中		・現状維持	小2 西小 24 南小 12 中1 西中 16
深良	深良小	深良中		・小学校は現状維持	小5 富一小 19 中1 富二小 6
富岡	富一小 富二小 千福小	富岡中	・3中学校を統合し（仮称） 北中学校を新設（深良中・ 富岡中・須山中）	千福小 6 深良小 11 須山小 6 (仮)北中 16	
須山	須山小	須山中			

1) 理由

- ・高校に進学することを考慮し、中学校ではある程度の集団活動が可能な学校規模とする
- ・小学校区では、東地区以外の学校は現状維持とするが、学校規模の適正化を図るため、必要に応じて学区の見直しを検討する

2) 期待される効果（メリット）

- ・中学校では、単学級の学校が解消され、複数の学級編成が可能となる
- ・統合後の中学校では、多様な教育活動の実施や競争意識・学習意欲向上の点で、学校の活性化が期待できる
- ・統合後の中学校では、部活動の選択肢が広がる

3) 課題（デメリット）

- ・行政区を超えた中学校の再編に対する保護者・地域住民の合意形成
- ・校区が広がることによる、通学手段と安全面の確保
- ・5小学校から1中学校に進学することに対する、対象校の連携と接続の工夫

【再編案Ⅲ】（単学級解消案）1学年2学級以上型（提言書 P30）

市民アンケートでは、1学年に2学級以上あったほうが良いとする回答が多かった。このため、既存単学級の学校を統合することで、1学年2学級以上の学校を創出する。

対象は、富岡第二小・須山小・向田小・千福が丘小・須山中

地区	小学校	中学校	再編（案）	学校数	学級数
東	東小 向田小	東中	・東小と向田小を統合	小1	東(向田)小 23
				中1	東中 12
西	西小 南小	西中	・現状維持	小2	西小 24
					南小 12
				中1	西中 16
深良	深良小	深良中	・小中一貫校の新設 ・小規模特認校制度の導入	小中1	深良小 11 深良中 6
富岡	富一小 富二小 千福小	富岡中	・富一小と千福小を統合 ・富岡中と須山中を統合	小1	富一(千)小 23
				中1	富(須)中 13
須山	須山小	須山中	・須山小と富二小を統合	小1	須(富二)小 6

1) 理由

- ・1学年2学級以上の学校規模とする

2) 期待される効果（メリット）

- ・単学級の学校が解消されることで学級対抗の活動が可能となるなど、競争力の高まりが期待できる
- ・小規模校では、小中一貫校や小規模特認校制度の導入により、特色ある学校づくりが目指せる
- ・小規模特認校では、市内のどこからも通学可能とすることもでき、学校選択の幅が広がる

3) 課題（デメリット）

- ・行政区を超えた再編に対する保護者・地域住民の合意形成
- ・校区が広がることによる、通学手段と安全面の確保
- ・行政区内に学校がなくなる可能性がある地区では、地域コミュニティの核を失う

いずれにしても学校再編の主体は児童生徒であることをふまえ、将来に向けて児童生徒に対する教育効果を高めるという視点で議論を進めていただきたいという意見が検討委員会から添えられて提言書として提出されています。

以上、昨年度開催されました「教育のあり方検討委員会」の説明を終わります。

【意見等】

市長

「教育のあり方検討委員会」の提言書の内容について説明していただきました。

最後にふれられております主体は児童生徒であり、将来に向けて児童生徒の教育効果を高める視点で議論を進めていくということに対し、私も賛成であります。議事録を確認させていただきましたけれども、あり方検討委員会では、村山委員長をはじめ委員の皆様が現状や課題をしっかりととらえ、ただやみくもに少子化だから学校を減らしていこうという内容ではなく、様々な角度から子ども達に望ましい教育環境を与えようということで調査議論していただいた様子が伝わって参りました。これについて私の考えは最後に述べさせていただきますので、提言の内容について3点について委員の皆様からご意見があれば伺いたいと思います。3点というのは、1つ目は適正な学校規模についてのご意見、2つ目が学校再編についてのご意見、3つ目が再編案についてのご意見を伺います。それらをお伺いしてから私の意見を述べさせていただきます。まず、1つ目の学校の適正規模について、前回も中間報告を受けていただいた部分もありますが、それと同じ内容になっても構いませんので、ご意見をいただきたいと思います。学校によっては単学級の学校はそのまま単学級でもいいのではないかというご意見もありますし、それはそれで現実に満足しているのかなと読み取れます。中学校の方はほとんどの方が2学級以上あるほうがよいというようなこともありますけれども、委員の皆様から捕捉でさらに意見があればお願いします。

委員

学級数は1学年2学級以上で規模は競争心を持たせるため大規模が良いと思います。複式学級にはしたくない。過去富岡第二小学校が何年か前に複式学級を行いました。ですが、住宅団地ができたおかげで複式が解消され現在に至ります。トヨタのウーブンシティに伴い人口増加ができるような市の施策を考えていただきたいなと思っております。

市長

ご意見として承っておきます。複式学級を身近で見られたことのある貴重なご意見として承ります。

委員

毎月の定例教育委員会でもいじめ問題が話題になります。単学級の場合、仮にいじめられている子がいるとクラス替えがないので小学校1年から6年までずっと一緒なので、不

登校になってしまうこともあり得るので、単学級はなくして複数学級の方がいいのではないかと思います。

市 長

人間関係についてのご意見です。

委 員

中学生は思春期に入って精神的にすごく成長する時期だと思うのですが、大人数の中で多くの人と関わることで成長できる部分がものすごくあると思います。一方、嫌いな人とも付き合わなくてはいけないし、気が合いそうだったら仲良くなりたいなと思ったり、自分の知らないことを教えてくれたり、自分のやってないことを頑張ってやっている人がいたり、いろんな人を見て自分が吸収したり成長したりできるすごく重要な年齢の時期だと思うので、中学校はなるべく大規模の方が子ども達の成長にはいい影響を与えたいと思います。

市 長

人間関係に関連して競争とか大人数でやった方がいいということですね。教育の専門家の教育長としてどうですか。

教育長

どの意見も必要な事だと思います。子ども達が集まったところが学校ですので、学校の良さをできるだけ生かす方法、再編が必要なのかなと思います。

市 長

規模の大小にかかわらず、メリット、デメリットがあるんだろうなと思います。この場では委員さんお思いを伝えていただければと思います。補足の意見はこのぐらいでよろしいでしょうか。

では、2番目にお聞きしたいのは学校再編について検討していく上で何を重要と考えたいかご意見をいただきたいと思います。アンケートでは確か交通安全ですとか、通学上の安全というのが一番重要となっていたようです。委員の方々にここはどうしても言いたいということがあればお願いします。

委 員

私も安全な通学を確保することが重要かと思います。遠距離通学となった場合にはそういうことも含めて、スクールバスの運行なども考慮すべきだと思います。

市 長

どの案になるかわかりませんが、少なくとも現状が多少なりとも変わることが想定

されるので、変わったら変わったなりに安全確保する策を同時に考えていかななくてはならないと感じております。他に重要にしたい視点はありますか。

委 員

先ほど市長もおっしゃってましたが、学校は子どもが第一の場所でありまして、大人の考え方だけではなく、子ども達の考えや意見を聞いた方がいいと思います。以前に熱海市の教育委員の話を書きましたが、子どもの意見を聞こうということで子どもに意見を言わせたそうです。その子は一人になってもこの学校に通いたいと言ったそうです。それには裏がありまして、保護者がそういう風に子どもに言わせてたそうです。私もそうだったのですが、大人、地元の方は学校というのは地域の核になるので、そういうことが言わせてしまったと思います。これからは私も含め考え方を改めなくてはならないと思っております。

市 長

基本的には学校は地域の核であることは間違いないと思います。そこをどういうふうに大切にしていくのか、あるいは子どもの意見も大事ですし地域の方とのコンセンサスも大事だと思うので、後程触れさせていただきますが、そういったものも手続き的にあるいは進め方で重視していくつもりではあります。

委 員

安全面や ICT 教育を合わせて人間性が豊かに自力で個性や能力を伸ばせる子どもたちを育成するために、教育環境を十分に整えた学校を再編成、再編計画の中で検討することが重要だと思います。

市 長

委員は地域の方として学校教育にお力をいただいております、地域の方がそう思えるような学校になくはないと思いますので、そのような視点は大事にしたいと思います。ICT、コンピューターの整備も効率的に行えた方が子ども達のためになる場合もあります。そのような整備が図られればやりやすくなる部分もあるかと思っております。他にはよろしいでしょうか。次に進めさせていただきます。次に、再編案 1～3 についてご意見がありましたら伺いたいと思っておりますがいかがでしょうか。

委 員

3つの再編案の中では1を希望します。5地区の中学校は現状維持とするという地域性を考慮するとか、小中一貫校、特認校の設立など学校に適していると思います。特に小中一貫校では中一ギャップを解消するとか、小学校から中学校への連携がうまくいくとか、9年間で成長させていく教育計画が立てられると思います。逆に9年間一緒ですと、児童生徒一人

一人の固定観念が生まれまして、なかなか新しいことが引き出せないという心配があります。話が早くて申し訳ないのですが、今後再編が決まった場合はどのように進めていくのでしょうか。

市 長

一通りとりあえず皆様の考えを伺ってから、進め方についてはお話をさせていただきます。

委 員

深良中学校は山の上にあるものですから、安全面の上で心配される方が多いです。私どもの時代には中学校が小学校と同じ敷地にありました。安全面の上でも1案、2案がいいと思います。

市 長

私は東中が山の上に移った初代の学年でして、足腰が鍛えられ良かった部分もあるかと思えますけれども、今は時代が色々代わってきてますので、安全面の心配は確かにあります。感想程度でも構いませんのでお一人ずつお願いします。

委 員

3案のうちどれがいいとか言いませんが、仮にどれか決まったとしまして、校舎の耐用年数もかなりきていますので、新築とかの話になるのかと思います。裾野の学校は3階が一番高いのですが、それを4階、5階など高層の校舎が建てられるようになれば、同じ敷地を使うのであれば、グラウンドを広く取れるメリットも生まれてくるのではないかと思います。そういうことが可能でしたら上に高くするというのも考えた方がいいと思います。

市 長

貴重なご意見ありがとうございました。丁度スケジュール、進め方の中で話をさせていただこうと思いましたが、学校の再編というのは施設を整備、建て替えと必ずリンクしていくので、その辺も合わせてよりよい子ども達にとっていい環境を作っていくという整備も一緒に考えていく必要があることで後ほどまとめさせていただければと思います。

委 員

私も今はどの案がいいというのはありませんが、進め方がすごく大事だと思います。校舎の老朽化と子どもの減少は確実に進んでいるので、結構先まで子どもの数の予測は出ているので、早めに始めていかないと、遅いのではないかなと思います。こことは関係ありませんが、給食センターも過去の話のようになってしまい、どうなっているのかわからない状態です。裾野市全体の小中学校の再編の話なので、すごく時間がかかると思います。スピードも大事になってくると思います。

市 長

待ったなしの部分がありますので、スピード感を持ってやりたいと思います。

委 員

私もここでどの案がということではないのですが、先ほど桃井委員がおっしゃったように、これから未来を担う子ども達にとって何が一番大切なのかということを重視して、質の高い教育を平等にすべての学校で行われるようにしていただきたいです。

市 長

ありがとうございます。追加で発言をという方はいらっしゃいますか。あり方検討委員の提言書の中身についてよく理解できましたし、教育委員の皆様方の考え方も私なりに頭の中に入れさせていただきました。委員の皆様方の考えは基本的に子ども達の為ということで一致できるのかなと思います。ご質問のあったこれからの進め方についてですが、提言書の33頁にも提言いただいておりますけれども、私も同じような考え方を持っておりました。庁内の施設整備の関係する部署と調整するために、庁内に検討委員会を立ち上げたいと思います。小中学校再編検討委員会となっておりますけれども、庄司委員から提案があったように給食センターなど教育に関する施設も一体的に考えていく必要があります。当然学校だけの建て替えではなくて、学校を建て替えますと、今ある給食室の問題もありますので、そこも一緒に解消していかなければならないので、給食センターとか教育に付随する施設、あるいは関連する児童館などいろいろ市の施設はありますけれども、こういったものをパッケージにして再編を考えるような委員会として、提言の考えと近いですが、庁内に仮称「教育施設再編計画検討委員会」を、まず立ち上げたいと思っております。当然ご指摘いただいた通り、学校は地域の核であります。地域の方の応援がないと成りたちませんし、まちづくりにも大きく影響しますので、地域の方に依頼して懇談会、名称は未定ですが地域の方と膝を交えて話ができるような会を設けて案を作っていくと考えているところであります。なるべくスピード感を持ってというご指摘もありましたので、意識をもってやっていくよう全体的に考えてやっていきたいと思っております。

委員の皆さん提言に書いてあることに対し何かご意見ご質問ありますか。

進め方については市長部局として案を作っていくということでご理解いただけますでしょうか。それでは速やかにそのようにさせていただきます。

他にご意見等ありましたらお願いします。

委 員

再編案3つすべてに東小・向田小の統合が入っているのですがそれはどうなるのでしょうか？

市長

できるものから進めていく必要があるのかなと思います。先ほど申しましたとおり地域の方との合意とかも大事なプロセスであろうかと思いますが、検討委員会の中で、事務局に確認しますが、その辺の感触とか、地区の方とかの異論があったとかその点の感触はいかがですか。

教育総務課長

あり方検討委員会の委員の中では東小、向田小の統合の反対はありませんでした。提言書が報道等で流していただいて、その際にも地域住民からの意見もありませんでした。

市長

そのことに関しましては私もそういう感触と承りました。再編の話を進めるためにもできるものについては順次取り組んでいくということで、全体を見ながら進めていきたいと思えます。スケジュール感にも関係しますけれども委員からもご指摘があった通り、裾野市を取り巻く環境というのがいろいろと企業の動き、トヨタさんのウーブンシティの関連がありまして、大きく動こうとしています。その中にも教育環境のものもありますので、その辺もしっかりと見極めながら進めたいと思えます。前回の会議の時に、もしかすると高等教育機関が裾野市に来るような可能性がありますよと情報提供したように環境が大きく変化します。子ども達のためになるように、ここで取り入れながら進めていくということで、まず、その動きについて企画部の方から説明をさせていただきたいと思えます。

説明者：企画部長

スソノ・デジタル・クリエイティブシティ構想、いわゆる「裾野 SDCC 構想」についてと SDCC 構想の中での教育の位置づけの 2 点をふまえて説明させていただきます。(資料提供)

○SDCC 構想の認識について

データをいかに使うかの問題提起が SDCC 構想の根幹

○目指す姿

豊かな自然と調和する次世代型近未来都市

**Susono
Digital
Creative
City**

富士山麓の豊かな自然環境のもと、クリエイティブ・マインドを持った市民・企業等がデジタル技術やデータの利活用により、あらゆる分野の地域課題を解決する次世代型近未来都市を目指す

○SDCC 構想の理念

市民生活を豊かにし、市民が生きる喜びを実感できるまちの実現

課題の解決をデジタルで行う

クリエイティブな思想を持つ

○9つの取組みの方向性

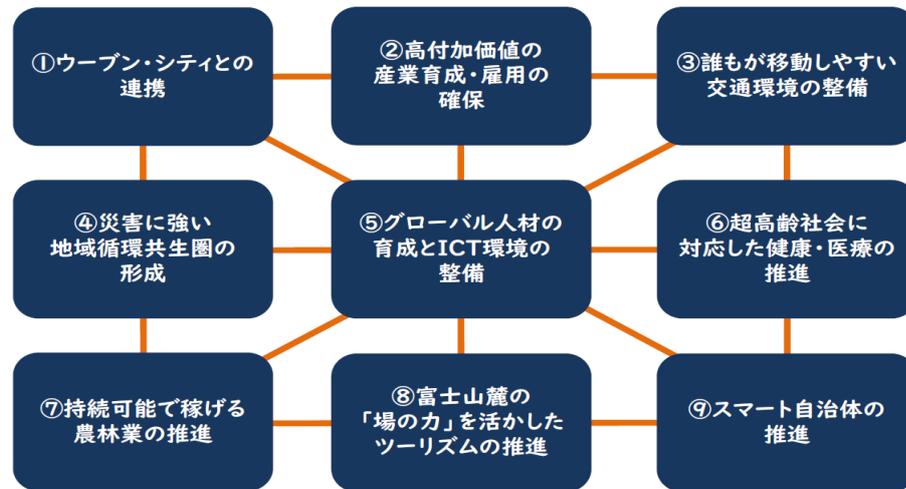
- 1) ウーブン・シティ周辺等の整備及び地域との融合
- 2) 高付加価値の産業育成・雇用の確保
- 3) 誰もが移動しやすい交通環境の整備
- 4) 災害に強い地域循環共生圏の形成
- 5) グローバル人材の育成と ICT 環境の整備
- 6) 超高齢社会に対応した健康・医療の推進
- 7) 持続可能で稼げる農林業の推進
- 8) 富士山麓の「場の力」を生かしたツーリズムの推進
- 9) スマート自治体の推進

教育関係は特に5番「グローバル人材の育成と ICT 環境の整備」が SDCC 構想の絡みになります。社会全体が国際化を迎えている中で学びに向かう力、人間力を養う力、あるいはデジタル化に対応する力が必要です。ここでは課題解決のための新しいシステムの構築であったり、コロナウイルス対策でいえば、「オンライン授業をある程度進めていかなければならない」というのが、課題の解決の方法、手法になります。そういった9つの取組の方向性ひとつひとつウーブンシティ周辺の整備であったり、地域との融合であったり、高付加価値の産業育成、雇用の確保であったり、すべて取り込んで課題の解決をデジタルでしていくのが SDCC 構想です。

一番わかりやすく言うと3番「誰もが移動しやすい交通環境の整備」と6番「超高齢社会に対応した健康・医療の推進」について言えば、高齢者の方はあまり免許返納せず、バス、タクシーをあまり今乗らないような状況となっていますが、トヨタさんのウーブンシティにおいては自動運転で回すようになります。超高齢者対応と移動しやすい交通環境とマッチングをさせるということです。そういったところが9つの課題を解決させるのに、データを連携して同じデータを使いながら、例えばスマホで車を呼んで移動しやすい環境のもとに病院に行く。支払いは病院でキャッシュレスの決済をしていく。このようにデータ連携をうまく活用していきましょうというのが SDCC 構想になります。課題解決としてスーパーシティ法が5月27日に国会を通過し、応募が9月から11月にかけてあります。裾野市ではこれに応募させていただき準備をしております。いずれにせよ人間が使われるのではなく道具として使うことを、根本に置きながらスーパーシティに手上げをしていきます。

ウーブンシティについては詳細はまだわからない部分もあり、具体的には言うことができませんが、市も協力しながら SDCC 構想を進めていく方向です。

SDCC構想の9つの取組みの方向性



9つの取組の方向性ですが、中心に5番があります。9つの課題はやはり人が中心であります。いろいろな便利な社会になっていくのですが、こちらでもそういう仕掛けはしていきますが人がメインです。当然人づくりが必要ですし、人材育成が必要です。学習環境も当然必要です。人のための制度ですので人を生かしながら進めていきます。教育の観点からすると、今現在のコロナウイルス、アフターコロナ、ウィズコロナの中でオンライン授業が非常に進んでいるような一歩先にいったかなというところはあるのですが、そういうところは追従していかないといけないと思います。

Society5.0 は狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会、次がデジタル革命と言われています。おそらく情報を使いながら生活をしていくのがこれから基本になっていくと思います。そういうところで教育環境が非常に重要になると思います。6月18日の静岡新聞に、「アフターコロナの未来図はトヨタ自動車が裾野市に建設する国際人からなる実証都市コネクティッドシティを核としたい。その周辺に医療、買い物、教育を整備することが必要だが足りないのは教育の国際化だ。中高一貫の英語対応のインターナショナル・スクールを誘致する必要がある。本件の高い利便性を生かし富士山の麓に人の営みと自然を調和した「ふじのくに絶景空間」を実現したい」と県知事が投稿しました。そういったところをふまえて、先ほど市長から高等教育の話もありましたけれども、どのように来るのか全く分かりませんがインターナショナルな方々がオープンシティに2千人来られるということは聞いてますので、そのようなことをふまえると、やはり高等教育機関ができる可能性はあると認識はしています。いずれにしても教育はこれからも非常に大事になっていくことは認識しています。

【意見等】

市長

企画部からの説明でしたが、オープンシティはトヨタさんが中心でやられ、その周辺の整

備は裾野市がやるということで取り組んでいきます。大きく環境が変わっていきますが、コロナの影響で一気に ICT 化も進んでおります。環境が大きく変わるということで小中学校の再編だけでなく全体の教育環境の再編に結び付けていきたいと考えております。まち自体も再編となっていく中で大切な核の教育についてこれからも総合教育の会議の中で議論させていただきながら進めていきたいと思っております。

最後に提言書の 35 頁“おわりに”示されているように、学校の再編に限らず、そもそも裾野の学校教育は裾野の子を育てるには何を大事にしていくのかしっかりと議論をして子ども達のための環境を作っていく必要があります。この視点はしっかりと持っていききたいと思います。委員の皆様からこれだけは裾野の子ども達に語り継いでいきたいという視点、提示がありましたらお願いします。

委 員

市長が言ったことと少し異なるかもしれませんが、ウーブンシティや GIGA スクール構想の話になりますけれども、ICT の環境整備をこれから急速に進めていきますが、コロナの影響の休校中に高校の話ではありますが、オンライン授業をやったところ、不登校の子どもがオンライン授業を受けたという話を聞きました。ですから、裾野市も不登校の子が結構いますので、そういう環境を整えば勉学の意欲がある子たちにとっては朗報かなということを感じております。学校に行くのが必ずしも絶対ということではなく、社会に出てからもテレワークが進んでますし、学校でオンライン授業を受け卒業し、そのまま社会に出てテレワークという道も開けるのではないのかなと思います。

市 長

卒業認定のあり方とか、今までのルールをとりはずすということもアイデアがあってもいいのかなと思います。なかなか望んでも望めなかった環境が周囲の方からこちらに寄ってきている、このタイミングを決して逃すことなくやっていきたいなと思います。

教育長、ここだけは外してはいけないというのはありますか。

教育長

今、教育はちょうど曲がり角に来ています。市長もおっしゃいましたがその先に行くような環境を与えていただけたと思います。桃井委員の話のように ICT 教育が進んでいけば子ども達同士のネットワークというの構築していけるのかなと思います。現在第 2 期教育振興基本計画を立てているところですが、この中にも新しい ICT 教育を取り入れていきたいと思っております。

付け加えて、科学技術のことも大事なのですが、もう片方で「裾野」のことを大事にしてほしいです。自分が育ってきた「裾野」を大事にしてほしいということをつけ加えます。

市 長

田園風景もマッチした未来の都市「田園未来都市 裾野市」と、言わせていただきますのはそういうことです。シビックプライドを持った子ども達が育ってくれば良いというのが前回、私もお願いした視点です。他にいかがでしょうか。

委 員

最先端の技術を取り入れるチャンスも生かしながら、反面、地域で守られてきた伝統、歴史を大切に守り語り継いでいくことも大事なかなと思います。

市 長

地域密着でやっていただけるとありがたいです。時間もそろそろということになってきましたけれども、委員の皆様他に何かございますでしょうか。

では、ありがとうございました。委員の皆様と意見交換させていただいた内容を大切に私の方で検討するよう進めさせていただきます。議事についてはこれで終了といたします。進行を教育部長にお返しします。

教育部長

ありがとうございました。次回の会議につきましては、調整させていただきまして、後日、ご連絡させていただきます。全体を通して皆様方から、何かございますか。

ないようですので、以上を持ちまして総合教育会議を閉会いたします。

お疲れ様でした。

16時00分 会議終了